

☆☆☆ Library Eye 2020 ☆☆☆

第12号 2021年3月1日(月)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【 中3 & 高3の保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます 】

明星での学校生活最後の一年間は、まさに新型コロナウイルスとの格闘でした。お子様方が楽しみにしていた多くの学校行事やイベントなどが中止、あるいは規模を縮小せざるをえず、胸の痛む日々でした。

学校生活や生徒の気持ち、報道の対象とされることはあまりありませんが、制約を受けた条件の中で子どもたちも一生懸命に耐えながら生活していることを、私たち大人は忘れてはならないでしょう。明星の校訓である「健康・真面目・努力」の「健康」とは、心も健康であれ、ということの意味しています。

今後の長い人生に於いて、お子様方が青空のように晴れやかな気持ちを胸に、幸せな春秋を送っていくことを図書館スタッフ一同、心より祈念しています。

【 あなたも「包囲」されている? 】

ショートショートの名手・**星新一**に「包囲」という佳品があります。ある日、ホームから突き落とされかけた「私」が、犯人を捕まえて問い詰めると、二人の人間から頼まれた、と答えます。その相手の名前と住所を聞き出して手帳に書きとめ、訪ねていくと、それぞれがまた二人の人間から頼まれた、というのです。

こうして「私」は自分を殺したがつている真犯人をどこまでも追及していくのですが、手帳を一冊書きつづいても、結局、その正体はわかりませんでした。

ラストは、このように結ばれています。

「世の中の人すべてが私を殺したがつていることだけは、おぼろげながら想像がついてきた。」

なんとも不気味な話ですが、私たちも現在、いつ自分も新型コロナウイルスにかかるのだろうか、すこしでも体調がおかしいとコロナにかかってしまったのではないだろうか、と不安に怯えながら生活しているのですから、眼に見えない敵に四方を「包囲」されているようなものではないでしょうか。

【 《好奇心》こそ学びの原点 】

メガヒット漫画『ドラゴンボール』のモデルともなった『西遊記』は、唐の時代の僧侶である**玄奘**が、中国からインドまで旅して帰国するまでを記した『大唐西域記』を下敷きとしたものです。この旅は17年間約3万キロにも及びましたが、途中、死の大地と呼ばれる砂漠や、何人かの同行者が凍死したほどの極寒の天山山脈を越えていく過酷な旅だったようです。『大日本沿海輿地全図』の完成に生涯を賭けた**伊能忠敬**は16年間をかけて約3万5000キロを踏破したそうです。命がけで異国を旅した**玄奘**や、当時としては高齢の50歳を過ぎてから第二の人生をスタートさせた**忠敬**に共通するものは、未知の世界への《好奇心》だったのではないのでしょうか。

1968年、福島県に住む高校生が、自転車で片道3時間かけて古い地層がある河川敷に通いつめ、ついに首長竜の化石を発見しました。**ドラえもん**の映画シリーズ第一作目の『のび太の恐竜』は、この発見に藤子不二雄が刺激を受けて誕生した、とされています。

まさに《好奇心》は学びの原点なのです。



【 平穏な日常が何よりの幸せ 】

東日本大震災から今年で10年が経ちます。在籍している生徒は、2歳～8歳という幼い頃にあの大きな地震を経験したこととなり、ほとんど記憶にないお子様も多いかと思います。あまりにも甚大な被害が連日報じられ、関東に住む私たちがさえ、休校や計画停電など日常生活に様々な影響が出て、卒業式や謝恩会が実施できない学校も多数ありました。10年が経過した現在でも、様々なところで復興に向けた取り組みが継続しており、まだまだ、日常を取り戻せない方々がいらっしゃいます。

被災した多くの方々が、「何でもない日常がどれだけ幸せだったか。」という言葉を目にしていました。当たり前であるからこそ気付かないけれど、失ってはじめてその大きさに気付く。それは、現在のコロナ禍にも通じることです。学校や会社に通い、家族や友人と食事や旅行を楽しむ。当たり前と思っていたことができなくなっています。「平穏な日常が何よりの幸せ」と、誰もが感じているのではないのでしょうか。



図書館では、震災関連の本を多数所蔵しています。震災をテーマにした小説や絵本など読みやすい本も多く、少しでも生徒に関心を持ってもらいたいと考え、入口スペースで展示を行っています。

「備えあれば憂いなし」ということわざがあります。ご家族からお子様にあの時の経験や教訓を伝え、いざという時のために、災害が発生した時にどう行動するのかを家族で確認し、**何でもない日常のありがたさ**、備えることの大切さを話し合うきっかけにさせていただけたらと思います。

【 2020年度 高校の部 ベストリーダー賞 受賞者決定! 】

高校の部は、卒業式が3月1日のため、ひと足早く2月26日までの貸出データに基づき、受賞者3名を決定しました。

受賞した皆さん、おめでとうございます!

今年度はコロナ禍のため、休校や分散登校などにより図書館も閉館や開館時間の短縮を余儀なくされました。そんな中でも、読書に対する意欲を継続して、たくさんの生徒の皆さんが、本を読んでくれたことを嬉しく思います。

受賞者の氏名は、中学の部とあわせて、次号でお知らせいたします。

【 ジェンダーを考える 】

3月8日は、国連が女性への差別をなくしていくことを目的に定めた「国際女性デー」です。SDGs(持続可能な開発目標)の17ゴールの5番目にも「ジェンダー平等を実現しよう-男女平等を実現し、すべての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう」とあります。

しかしながら、先の「女性蔑視発言」でもわかるように、ジェンダーに基づく偏見や不平等は未だ解決されておらず、根深い問題となっています。男女平等ランキング国際機関の評価(2020年)でも、日本は153ヵ国中121位、先進国の中では最下位です。

そこで、今月はぜひ中高生の皆さんにも考えてもらいたいと、「ジェンダー」を取り上げた本の展示を行っています。『「女子」という呪い』(雨宮処凛)、『これからの男の子たちへ-「男らしさ」から自由になるためのレッスン』(太田啓子)、『炎上CMでよみとくジェンダー論』(瀬地山角)、『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』(小川たまか)、『モテないけど生きてます』(ぼくらの非モテ研究会)など、手に取りやすい本がたくさんあります。また「父乳の夢」など性差をユーモラスに描いた『肉体のジェンダーを笑うな』(山崎ナオコ)などの小説もあります。展示作品以外でも、最近の小説は「ジェンダーレス・ダイバーシティ」に富んだものが多く見受けられますので、読書でいろいろな価値観に触れてみてほしいです。ジェンダー意識の高い、差別のない社会を目指しましょう!

